

ありまふじ里山だより

Vol.36

『ありまふじ里山だより』では、棚田里山エリアの自然の様子や里山保全に向けた取り組みについてご紹介します。Vol.36はカエンタケや棚田、里守の会の活動の様子についてお届けします。



猛毒キノコ「カエンタケ」

里山散策ルート沿いにある枯れた木の株元に、猛毒キノコで知られるカエンタケが生えてました。真っ赤な色をした人の指が地面から生えたような異様な姿に思わずギョッとしてしまいました。
(絶対に触れないようにご注意ください)



もうすぐ稲刈り

棚田ではもうすぐ稲刈りの時期を迎えます。餅米は穂が充実して頭を垂れています。一段下の古代米を育てている田んぼでは、黒米や赤米など、それぞれの色がより一層際立ってきました。



里守の会、活動日！

大豆や和綿は食害に遭い、散々な結果になってしまいました。わずかに残っている株もありましたが、すべて片付けて、かるく耕したのち、冬野菜の種まきをしました。数日後の様子を見てみると、大根や白菜、さまざまな葉物野菜の芽がきれいに揃っていました。

里山ではまもなく落葉の季節を迎えます。この落ち葉を集めて堆肥化することで、できた土を畑に還元する。そんな里山と畑をつなぐ試みも考えていきたいと思えます。

